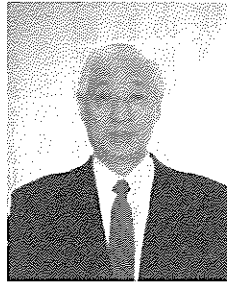


# ふくしま県人会だより

第 10 号  
平成 16 年 8 月  
福島県人会  
北海道連合会

会長あいさつ

会長 長谷川 顕



「ふくしま県人会だより」第十号の発行に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

本年五月八日佐藤栄佐久福島県知事ご夫妻のご臨席のもと、上川町層雲峡において開催された北海道連合会総会も盛会裡に無事終わり、新年度の出版を迎えることができました。これも偏に旭川県人会皆様方の献身的運営の賜とご苦勞に対し衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、今年は昨年と異なり異常な暖かさに恵まれ、農作物の生育にも好影響をもたらしているものと推察いたしております。国内景気も上向

き傾向にありますが、北海道には未だその恩恵は感じられず残念に思っているところです。ただし北海道と福島県との交流を図るべく県知事のリーダーシップのもと去る七月には福島県において交流シンポジウムが開かれ、北海道からも多数の方が参加され、有益な交換会が開催されており、しかしながら、今後においても経済交流をはじめ人的交流そして各空港の利用促進等多くの課題を抱えております。このような課題を早期に解決されることを願い、最大の努力と協力は県人会員として果たさなければならぬと痛感しているところです。

また、私どもの手元には県庁からの広報誌等多くの情報を頂く中、母県の活動ぶりには勇気が湧々とわき上がって来るように感じております。今後とも県人会員の皆様と互いに手を取り合い連携をより強めてまいりたいと考えております。

終わりに、皆様方の益々の発展と健勝を祈念し挨拶に代えさせていただきます。

だきます。

なお、来年の連合会総会は稚内県人会が幹事県人会として運営することに決定しておりますが、皆様方のご協力をぜひお願いいたしますとともに、多くの会員のご参加をお待ちしております。何卒ご健勝には十分留意され元気なお顔でお会いできますことを祈念いたします。

## 会員通信

「北海道福島県人会連合会の総会と参加への御礼」

旭川福島県人会 高橋 登

旭川県人会は本年創立四十周年を迎え、連合会の総会当番も五回目と喜ばしい節目の年となりました。総会の企画・運営については、昨年の総会の引継直後に第一回の拡大役員会を旭川市の職員会館で開催し、ペーパー部会の参加も得て分担役割の大綱を決め、総会の会場については、平成十四年十月当県人会の役員会で層雲峡のホテル大雪に内定し、本年当初に当会顧問の方々のお世話により決定したわけです。今回は約二百

名位の参加予定者ですので、総会出席の皆様にとのようにして楽しい一夜を過ごしていただけたのかと考えていたところ、北海道事務所長や担当職員の方々にご多忙中のところ二回も現地に入っていた、ホテルとの打合せや旭川での役員会への助言と大変なご苦勞をお掛けしましたことに対し御礼申し上げます。また、旭川県人会として御参加の皆様にも手際も多々ありましたことをお詫び申し上げます。総括である当会小野会長のペーパー部会との打合せや各方面への取りまとめに対するご苦勞には頭の下がる思いです。星幹事長には総会に対する企画・設定・予算・広告収入見込・道事務所との打合せ・各役員との連絡運営などで大変なお働きをいただいたことを特記しておき、各県人会の役員の方々に申し上げます。小生に於いては何等お手伝いも出来ず、記念の半纏とタオルのデザイン等発注をして出来上がったところで総会二日前に入院となつてしまいました。昭和四十年当会創立時三十九歳の美壮年も今や喜寿となり前立腺癌でコンピュータ化された放射線の治療で回復すべく頑張っておりますので今後ともよろしくお願い申し上げます。



「二十五回美幌観光和牛祭り」  
美幌町福島県人会 加藤利夫

美幌観光和牛祭りが今年も賑やかに開かれました。この行事は酪農家の和牛の振興と美幌の観光の発展を兼ねた大きなイベントで、今年で二十五回目を迎えました。毎年七月の第三日曜日と決まっており、この日町民の胃袋に収まった肉は成牛七頭分で五千三百パック。焼くための木炭は火鉢三百五十基分とのことでした。会場の整備には大変な努力がありました。今年は百年来の大雪で排雪に困り、河川敷が除排雪の場所となってしまう、堆く積まれ、雪は五月一杯まで残りました。雪の消えた

後に残ったのは「ゴミ」の山で会場の変更も考えられた程でした。ただし、町民が行政と一体となり、延べ人員八百人の労力で見事会場の整備に成功しました。これぞ、町民「パワー」でした。

祭り前日夕方より天候が心配されましたが、宵の中は小雨でしたが、予報によると明け方まで雨は残ることでした。県人会の面々も折角楽しみにしていたのと思い、六時頃会長宅へ電話したところ、会長は今朝三時に場所取り（陣取り）に行つたが雨が降ってきたので途中で帰り、再び四時に行つて場所を設定してきたとのことで、頭の下がる思いです。斉藤会計や柳沼幹事長をはじめ、役員の方々も三々五々集まり火鉢を確保し各々席に着き、先ずはビールで乾杯し、始めました。風間副会長が朝取りの野菜を提供し、最初は牛肉でしたが、その後「ジンギスカン」「焼鶏」とピッチ上げ、故郷のお祭り話などで終日を過ごしました。会場中央に設けられた大舞台では町内の中学生による演奏が流され、上空には落下傘にエンジンの付いた物体が人を乗せて飛び交っていました。正午丁度、本日最大の呼び物である「北山たけし」「石原詢子」の二人による歌謡ショーが始まりました。北山たけしはご存知北島三郎

の最後の弟子とかで、声量の優れた歌手でした。石原詢子は、テレビ、ラジオ、舞台と東奔西走の活躍で第一人者です。約一万人の大声援をバックに一時間熱唱して幕となりました。曇り日の最高の日でした。特設の屋台村では冷たいものに長蛇の列ができ、子供の買物客で一杯でした。町議や道議の各氏も顔を出し、会長と同様夫人も大忙しでした。今回の牛肉祭りは県人会にとつて気楽に飲み食いのできる一日でしたが、九月四〜六日の三日間は祭りの当事者です。腕によりをかけて頑張りたいと思います。午後三時頃、会長宅に諸々の品を返還し、雑談の後、お互い元気に楽しく若返るよう努力することとで散会しました。

今回は祭りの後で、皆様お元気で。



「ふるさと」  
オホーツクD.Oいなか博紋別市実行委員会 事務局次長 安部光典

福島県の会津磐梯山は、「宝の山」として歌われて県民に親しまれている名峰であり、日本百名山の一つに数えられ、県外に移住した人々には故郷の山として思いを馳せる山になつている。

先日、日本百名山ではないが、滝上町と朝日町にまたがる「天塩岳」千五百五十七mに登山体験事業で登頂してきたが、山頂からの雄大な景色は人々を魅了するものがある。このほか管内には千mを超える山としてウエンシリ岳、平山、武利山があり、北海道新聞社が北海道百名山として道内外から登山者を集めていることから、オホーツクD.Oいなか博紋別市事業では、「遠紋エリア北海道百名山ツアー」として、管内の雄大な自然に親しんでもらう体験事業を実施している。

また、紋別には、標高はさほど高くないが、紋別山（通称・大山）があり、植樹祭やハイキング、トレッキング、冬のスキーなど憩いの場として、市民に親しまれている。

オホーツクD.Oいなか博は、圏域の山や川、海などの地域の自然に親

しみ、市町村の文化や歴史、暮らしを活かして数多くの観光客を誘致し、地域おこしにつなげようとする体験観光型イベントであり、地域住民が自分達の周囲の自然や特色、特産を意識してもらおうものである。

このため、近隣登山やフィッシング、ウォーキングなどの自然体験のほか、酪農体験やもの作り体験などの体験プログラムの実施や従来の「まつり」と客船「にっぽん丸」「飛鳥」練習帆船「日本丸」、砕氷船「しらせ」など紋別に初めて寄港する話題船の誘致や「旬鮮まつり」「植木・園芸まつり」「オホーツク食彩フェスタ」などの新しいイベントを創出しながら進められているが、観光客へのサービスばかりでなく、市民子ども達にも紋別をよく知ってもらいたいための取組みでもある。

就職や進学、移転などで紋別を離れることがあっても、故郷の山や川、海、まちとして紋別に愛着と誇りを持ち続け、紋別を大いに知らしめてほしいと想っている。

福島県人会の皆さんは、遠く福島県を離れ、縁逢つて紋別に生まれた方達であります。福島県同様紋別市を第二の故郷として愛していただき、これからの紋別発展にご尽力いただくとともに、現在開催中の「オホーツクD.O.いなか博」のイベント

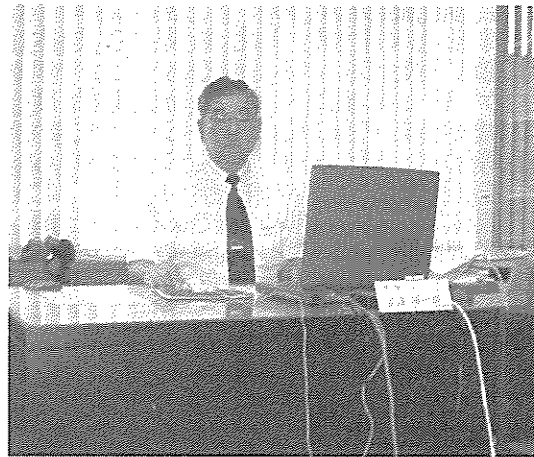
や各種事業にご協力をいただきますようお願いいたします。

終わりに、福島県人会の益々のご発展と会員皆様のご健康と御活躍をお祈りいたします。

## 〇Bからのお願い

北海道勤務の思い出

第七代次長 宮澤 順一郎



福島県人会北海道連合会の会員の皆様、ご無沙汰しております。私が北海道事務所を離れて、今年で十六年目を迎えました。

私は福島県北海道事務所、昭和六十一年四月から平成元年三月まで

の三年間勤務、昭和の時代の最後の三年間を北海道で過ごしましたが、このことは、県職員生活の中でも忘れることのできない思い出となっております。

子どもたち（一男一女）が、まだ小学生（五年生と四年生）でしたので、親子四人で北海道に赴任することができました。このため、子どもたちの学校が夏休みになると、事務所でも最初に夏休みをいただき、一年目は道東、二年目は道北、三年目は道南から青森方面へと道内をマイカーで旅しましたが、福島から持ち込んだ車は一年しか持たず、二年目に買い換えて札幌ナンバーを取得、以後、福島に戻ってからも二年ほど乗りまわしておりました。

また、北海道事務所の三年間で、一番記憶に残っていることは、福島県人会北海道連合会の昭和六十三年の母県訪問です。

この年、昭和六十三年（二九八八）三月十三日に、青函トンネルが営業を開始し、連合会の母県訪問は、青函トンネル経由でいくことが、総会で決められました。この原稿を書くために見つけた当時のメモによると旅行の日程は次のとおりです。

初日・昭和六十三年十月十一日（火）は、札幌駅一階みどりの窓口前十八時集合。札幌駅十九時十九分

発・北斗星六号に乗車。

二日目・十月十二日（水）は、知事公館に佐藤知事を表敬訪問。飯坂温泉・若喜別館に宿泊。事務所OB等が参加した懇親会を実施。

三日目・十月十三日（木）は、高柴デコ屋敷、あぶくま洞を経て常磐ハワイアンセンターに宿泊。

四日目・十月十四日（金）は、白河の関、大内宿を経て芦ノ牧温泉・大川荘に宿泊。

最終日・十月十五日（土）は、会津藩校日新館、天鏡閣、野口記念館を経由して、郡山駅で解散。

ちなみに、知事表敬時の記録によれば三年ぶり六回目の母県訪問で、八県人会四十七名の参加、団長は森口松太郎連合会会長（札幌）でした。

北海道から戻って十六年、このうち七年間を出先機関に勤務して、県内各地に生活してみると、各々良いところが再発見できて楽しんでおり、現在は、県立図書館で読書三昧に暮らしております。

## 新会員紹介

札幌福島県人会

服部忠良 小野町  
天羽 浩 郡山市

帯広福島県人会

渡辺玲子 小高町

稚内福島県人会

一条篤枝

門馬勝彦 いわき市錦町

美幌福島県人会

刈谷典稔 郡山市

## 連合会の活動

平成十五年度第二回役員会

平成十六年一月二十九日

札幌市「京王プラザホテル」

平成十六年度第一回役員会

平成十六年五月九日

上川町「ホテル大雪」

平成十六年度連合会総会

第三十二回福島県人会北海道連合会総会は、五月九日に上川町層雲峡温泉「ホテル大雪」を会場に、来賓として佐藤栄佐久知事御夫妻をはじめ、加藤貞夫福島県議会議長や佐藤守北海道警察旭川方面本部長などをお迎えし、会員百九十三名が参加して盛大に開催されました。

席上、知事感謝状が矢野政直さん（美幌町）に、連合会長感謝状が佐久間熙栄さん（旭川）をはじめ十一名の方に贈呈されました。

なお、次期開催地である稚内県人

会から歓迎のあいさつがありました。

## 北海道・福島県交流シンポジウム

本年度から北海道と福島県の交流事業が始まり、その事業のひとつとして七月十七日（土）に北海道・福島県交流シンポジウムが会津若松市にある会津大学で開催されました。

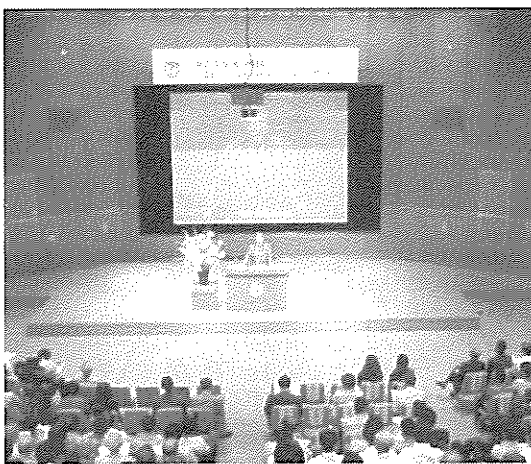
北海道からも、山本副知事をはじめ、ふくしまフレンドの方9名、福島県人会の方3名、YOSAKOIソーランのチームなど多くの方が参加いたしました。前日に北海道を出発し、午後からは野口英世記念館や会津鶴ヶ城等を観光いたしました。会津鶴ヶ城では、どじやぶりの雨の中での観光となりました。夜は北海道事務所職員OBを交えての懇親会を郷土料理の店「田事」で開催いたしました。終始、なごやかな雰囲気でも楽しい一時でした。翌十七日は、午前中に柳津虚空蔵尊を観光し、喜多方ラーメンの店「まるや」で昼食を取りました。その後、会津大学で佐藤知事と懇談をし、北海道・福島県交流シンポジウムへ参加い

たしました。

シンポジウムでは、①太田原北海道大学教授の基調講演②北海道副知事等をお迎えしてのパネルディスカッション③YOSAKOIソーランの公演が行われました。

シンポジウム終了後、佐藤知事を交えて総勢百名ほどの参加で歓迎レセプションが開催されました。翌十八日は、会津若松駅で各自お土産を購入し、その後、飯盛山を観光しました。バスの中で昼食をとった後、福島空港から帰途につき新千歳空港で解散いたしました。

今後とも引き続き様々な分野で北海道と福島県の交流を進めてまいりますので、皆様方のご支援、ご協力よろしく願います。



## 新任職員自己紹介

主幹兼次長 津田正美

この四月の人事異動で北海道事務所にまいりました。三月までは子供たちが自然体験活動や宿泊訓練などを行う郡山自然の家に通ってまいりました。自宅は福島市にありますが、出身は伊達郡梁川町です。モモ生産農家の次男として生まれました。子供は三人おります。だれも付いてこないで、単身でまいりました。

さて、五月の連合会総会では、各県人会の皆様方に多大なる御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

今年度は母県訪問の年でもありますが、私も同行いたしますので、皆様是非ふるって御参加ください。

今後とも県人会の皆様への御支援を受けながら、この北海道で仕事をしたいと考えておりますので、どうぞよろしく願います。

## 編集後記

今年の札幌は三十度以上の真夏日が続く。福島に居るようでした。我が家にはクーラーがないので寝苦しい毎日でした。皆さんのところはいかがでしたか。

次回は来年一月発行です。原稿をお待ちしております。十一月末頃までよろしく願います。（津田）